

教育福祉常任委員会会議記録

1. 期 日 平成 30 年 5 月 15 日 (火) 開会 11 時 10 分
閉会 11 時 52 分
2. 場 所 第 1 委員会室
3. 付議事件 地域と学校のあり方について
・視察先の決定と質問事項
・第 3 回定例会までの予定
4. 出席者 前田委員長 一石副委員長 小笠原委員 露木委員 渡辺委員 根岸委員
添田委員
傍聴議員 0 名
一般傍聴者 0 名
議会事務局 1 名 (庶務課長)
5. 経 過

議長あいさつ

地域と学校のあり方について ・視察先の決定と質問事項

委員長 議会閉会中の継続調査として地域と学校のあり方についてを検討してきたが、6 月議会後も地域と学校のあり方についてを継続調査としたい。意見があるか。

根岸 このテーマを継続調査にすることについて、教育委員会側では 31 年度ということがある中で、教育委員会との話し合いのセッティングもできないまま、何をするのか見えにくい。今回の視察もその一環といえそうだが、こういうことをしていくということを教えていただきたい。

委員長 今年度、二宮町としては一色小学校をコミュニティスクール化し開校した。次年度残り 4 校についても、コミュニティスクール化をしていくということが教育委員会から出ている。教育委員会とのヒアリングについては提案しているが、4 月に始めたばかりであり、来年度以降のことについての検討を進めるに当たって、整理した後に設定したいとの回答であった。時期は 6 月議会後になってしまい申し訳ないが、整理に時間がかかるため、6 月議会後ということでご了解いただきたいという回答であった。

根岸 6 月議会後にはセッティングできるということか。

委員長 教育委員会としては、早くても 6 月議会後までかかってしまうため、もう少し時間をいただきたいということだった。教育部長には、こちらとしては勉強会等の中でも、教育委員会とのヒアリングをする機会を設けて、お互いに意見

を交換し合い、意思の疎通を持った上で、学校のあり方について進めていきたいという旨を伝えた。6月議会後も委員会とのヒアリング等を重ね、町としてより良い方向を導き出していくべきではないかということで、この形で提案している。過日の勉強会でも、教育基本法に則り、学校と地域の連携が必要で、地域コミュニティの拠点としての学校として、千葉県八千代市で研修された資料を皆さまにもお配りし説明した。視察については後ほど話すが、7月の視察でも1か所は埼玉県の宮代町に行き、地域と学校のあり方について研修する予定となっている。

根岸

正式な議決を経ているというところに、もっと内容の充実が伴う必要があるのではないか。そこにギャップを感じている。先日、教育委員会から示されたものがあり、そのことをもっと検証を深めていくのか、あるいは31年度に出すと言っているのを待ち、もう少し近くなったらきちんとしたものをこちらからも話をするなどもある。任期の問題はあるが。

委員長

31年度は学区の問題でないか。32年度まで学区再編等の問題について出てくるということだが、コミュニティスクール化は来年の4月より二宮町5校全てが行われる。現在、学校のPTAの会長会に話を伺ったが、中身は全く白紙で、学校長も困っている。保護者側としては、学校側にどのような方針でやるのか早く出していただきたい、それによって検討すべき事項が見えてくると申し入れしているそうだ。学校長が指導主事の話をもった結果がPTAに下りてきているが、まだ中身が無い状態でとにかくコミュニティスクール化をするという町の実情である。そういった状態でコミュニティスクール化して児童・生徒たちが、より良い教育に結びつけることができるのか。学校というものは地域と児童・生徒があってこそ成り立つもので、二宮町の未来を担っていく子どもたちがよりよい方向で学校教育を受けることができる形を、我々も検討していく必要があると思う。4月より一色小学校のコミュニティスクール化がされ、7月には1学期が終わるため、学校としてはコミュニティスクールがどうだったか検証が可能である。それを基に、残り4校のコミュニティスクール化にも何らかの示唆を与えることができるのではないかと思っている。そういったところで、この委員会で忌憚のない意見を出していただき、まとめていきたいと思うがいかがか。

添田

タイトルに地域と学校とずっと出ているが、中身については多岐にわたり、最初に学校の問題を問うたのは、東大跡地の利用のところで、それは児童数の減少と共に、学校として捉えた方がよいという形で出てきた問題だったと思う。その後、コミュニティスクールや小中一貫等の新しい知識が我々に得られて、そこに目が行き過ぎた。コミュニティスクールを今から議会で議論しても、実際に議論するものはないのではないか。小中一貫についても、カリキュラムの問題、プロセス・やり方の問題であって我々議会として入る余地がない。我々はやはり町民の意見というものを拾い上げて、町政に反映するという目的から考えると、先日教育委員会から報告されたような、将来の地域と学校のあり方というものを既に取り組みもうとしているわけで、それにおいては一番難しい課題に取り組みで、町民の意見を集約していく方が、目的に沿っているのではないか。先日、教育長が小学校区を残すという原則で行った秦野市を例にしていると言われたが、秦野の場合は実は、それは学校から考えた問題ではなく公共

施設の再配置を学校区で行った。その話を秦野市から以前聞いていて、そういう意味では、秦野市がなぜ小学校区を残すという結論に至ったのか、どのように地域を将来の地域分けしていったのかを、むしろ外部からの知識で得るのであれば、そのような知識を得てそれを参考にしながら、この町の地域を学校と組み合わせ、どのようにしていくかという本丸の方にそろそろ話を進めていった方がよい。あと半年しかない短い期間だが、取りかかりとなるようなものを作っていった方がよい。高齢者福祉のところもやろうと思ったらいくらでも、例えば地域包括ケアシステムそれ自体も我々としてはまだ突っ込んだ形でやっていない。この間のシェアにのみやも、認知症の問題を取り上げると、興味のある方はたくさんいて、身近な問題として捉えられているが、どちらかと言えば、この半年をやるのであれば、取りかかりができる形に地域と学校の問題をやった方がよい。2つも3つもできない。それをやらないと議会は取り上げにくいのでずっと取り上げてこないと思うので1度取り上げてみたらいかか。

渡辺

私も、添田議員と良く似た考えで、ひとつは町から説明を受けるということで、その中には学区再編もあれば、学校の再編成というテーマで出てくるわけで、そこにたたき台があるわけで、町議会としての見解をはっきりまとめる。そこで一旦見解をまとめておけば、11月からも引き継げる。問題点として考えているのは、宮代町のことを調べていたら審議会を作っていて、2年間かけてやっている。二宮町の場合は、そのような過程をこれまでしてこなかったし、今後どうするのか、説明の中でどういった形で出るか分からないが、逆に言えば、他での経験があるのだから、ひとつの方向性として、見解として、町民の意見を公式にまとめる仕組みを作るか作らないかという点も論点になるかと思う。地域と学校のあり方というテーマでも良いが、中身としては学校再配置計画、学区の編成についての町のたたき台に対する議会の見解をまとめるというようなゴールをはっきりさせればどうかと思う。

露木

渡辺委員や添田委員や根岸委員に同意するところがあり、この間のシェアにのみやでも、お母さん方が学校教育費の回に来て下さったが、コミュニティスクールやICTと言っていたが、もっと現場は深刻で、トイレや、雨漏りというところでは私も保護者であり、すごく感じている。コミュニティスクールについても保護者の方は、こんなに大変な状況で先生の負担が増えるという意識しかお持ちではなくて、でもコミュニティスクールにすると地域の方が入るからでき上がればより良いものになると説明はしたが、来年からやろうとしているのにそういう状況である。いくら私たちがコミュニティスクールの部分で力を入れていっても中々議会ができることは限られる。例えば地域に下ろせるのか学校という現場に下ろせるのか、もしくは教育委員会へのアプローチしかできないのか、そこも見えていない状況で喫緊の状況、学区編成の方を見ていないで、町民の方の役場新調査でのシェアにのみやの話もあったが、私たちも、もちろん一生懸命やっているが、どうも町民の方の危機感とずれているところを研究しているようだ。それこそ3年かけて健康条例を作っていて良かったのか、そういったことも、もしかしたら私たちの危機感が表れていないのかもしれない。今回の地域と学校のあり方についてというのは、とても大きなテーマで、大きなテーマにしておけば流動的に色々なことが研究できるということはあったが、それもまた町民に対する情報提供という意味では、テーマが大きすぎて、結局議会は何をしていたのかとなる。研究テーマ名もある意味細かい方が

よいかもしれない。メリット・デメリットはあると思うが。色々な問題がある中でのテーマをより具体にするための検討期間、もちろん研究はやりつつ、認知症・コミュニティスクール・学区編成もやりつつ次に時に研究テーマをはっきりする。改選の話もあるが、今回の期間、継続するべきなのかというところから疑問である。

委員長

今回、このテーマで持ってきたのは、3月議会後の勉強会の中で、渡辺委員より9月議会で最終的なところをこの委員会としての最終案は出さなければいけないといったところで、テーマをひとつに絞った。地域と学校のあり方としても幅が広いので、その中に何かをひとつ絞ったらどうかと話が出た。そこで、今回学校再配置や学区再編等そういった点に絞る必要があるのではないか。9月議会でするのであれば8月の半ば頃までがタイムリミットになってくる。あと2か月しかなく、大きなテーマであるがどの点について調査をしていくのか、今、添田委員、渡辺委員、露木委員から喫緊の課題は何か、コミュニティスクールやICT機器の導入等よりも喫緊の課題があるはずだ。学校再配置や教育委員会が検討している学区再編問題、学校の施設についてという意見が出た。

小笠原

私は、学区の再編をぜひ取り組んでほしいと思っている。教育委員会とのやり取りだけで事が進むわけではないわけで、私たちは私たちのネットワークで何がより良い道に続くのかということをしっかりやっていかないといけない。今現在、1年生は21人しかいない中、来年は20人代ではなく10数人しかいないのではないかとされている。小中一貫もありがたいが、今現在友達がいないことに対しての対策はどのように取っているのか。40人のクラスであったとしても、お稽古ごとや今現在の日本の社会状況というのかその中で、道路に出て行けば誰かが遊んでいるという時代ではないわけで、本当に放課後家にこもってゲームしかやらないみたいなことが、ほとんどの子どもたちが、そういった状況に陥っているわけであり、そこをなんとか色々な方法で学区の再編だけではない。同じ町で4クラスあるのと、1クラスで20人くらいしかいないのでは、やはり色々な体験、人との出会いの体験もすごく違ってくる。何しろそっちを早くやらねばならないと思っている。大きな問題だとしても、私たち全部を網羅できなくても、やれるところから進められればと思う。コミュニティスクールは、おっしゃるように取りかかる時は良く分からなくて一生懸命勉強したりして、提案していきたいという姿勢であったが、もう進んできているわけであり、あとはもう弾み車も回り始めているので、前段の委員の皆さまと同じ考えである。

一石

今、皆さまからご意見が出たことについて、私も同意見である。特に、シェアにのみやで町民の方々からいただいた意見が大変衝撃的であった。コミュニティスクールについては、いつまでこんなことをやるんだと、実際の運用についての現実的なことができない。そのコーディネーター役を果たすものとして私たちが活躍できないかとすごく思った次第である。それから、学校教育の子どもがランドセルを背負って歩く距離について、言及があったが、やはり子どもの声を聞くというすごく重要な意見をいただいて、そここのところが本当に欠けていて、地域と学校のあり方は、実際はやはり現場の課題にすごく沿うということが一番重大なことでそここの役割をシェアにのみやの形を運用した形で、先ほども添田さんから町民の意見を聴く動きを起こすというよ

うなことで、短い任期だが、果たせるのではないかなと思っている。

委員長

皆さまからご意見をいただいたが、その意見としては、過日行いましたシェアにのみやでも出ていた町民の方々の意見も基にし、子ども達のことを考え、小笠原委員からもあったが、1クラス規模の学校と4クラス規模の学校が小さな町の中にあるのは不自然である。子どもたち1人ひとりのことを考えていけば、添田委員や渡辺委員からも出ておりましたように、学校再配置、学区再編についてを取り上げて、進めていったらどうかという意見であった。そのあたりでまとめてよろしいか。

休憩 11 時 36 分

再開 11 時 47 分

委員長

継続調査のテーマとしては、地域と学校のあり方とし、その中の残り2か月あまりの実質の活動内容としては、学校再配置と学区再編をテーマとして進めていくがよろしいか。

小笠原

今、委員長の発言の中で残り2か月とあったが。

委員長

9月議会の報告となるため、それを調査していく期間は6月8日、9日以降から8月半ばとなる。よろしいか。

(「異議なし」との声あり)

委員長

続いて、視察先の決定と質問事項についてだが、7月12日は埼玉県南埼玉郡宮代町の笠原小学校、13日は東京都日出町で高齢者福祉についての研修を受ける。先方の了承は得ている。質問事項については、渡辺委員より宮代町、日出町への質問案が4項目提出されている。追加で質問したい方がいればご提出願う。

庶務課長

先方に回答の猶予を与える必要があり、3週間前には送付したい。

委員長

6月議会が6月8日に終了するため、6月15日を目途にしたいと考えるがいかがか。

(「異議なし」との声あり)

委員長

それでは、6月15日までに出了質問事項を取りまとめ、皆さまに提示する。最後に第3回定例会までの予定だが、先ほどのテーマに則り、町民の方々より意見を聴く会を開催し、我々の勉強会・委員会を進めていき、9月議会では学校再配置と学区再編についてできたところで報告し、それぞれの条件を整理して次の議会に引き継ぐという流れでよろしいか。6月議会後皆さまの意見をいただき修正しながら進めていく。

(「異議なし」との声あり)

委員長

その他に何かあるか。

小笠原

限られた時間の中で詰めていかなければならない。これまでも日程調整に時間がかかっているので、この後ある程度抑えていただきたい。

委員長

6月議会終了前に皆さまの予定を伺い、次の勉強会、委員会の日程を立てていきたい。他になければ、この後、午後1時45分出発で、はなの家、かわわの家、丸太の家を視察する。

閉会 11時52分